

授業概要

科学としての心理学では、「人の心」を理解するために実験や調査が行われる。そして、実験や調査で得られた数値データは、数値の意味を解釈するために統計的処理が行われる。心理学統計法 I では、主に、心理学で用いられるこうした数値データの統計的処理と解釈に必要な最も基礎的な理論が理解できるよう、講義する。更に、理解を深めるために、一部、計算演習も交えて指導する。なお、本科目は心理学科の卒業に必須の必修科目である。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、成績評価など）／心理統計に入る前に データと尺度
第 2 回	記述統計① データをまとめてみる
第 3 回	記述統計② 代表値、散布度
第 4 回	記述統計③ 標準得点と偏差値
第 5 回	記述統計④ 相関関係 ピアソンの相関係数
第 6 回	推測統計① サンプルング 確率と正規分布
第 7 回	推測統計② 確率と正規分布
第 8 回	推測統計③ 確率の読み取り
第 9 回	推測統計④ 信頼区間
第 10 回	統計的仮説検定① 検定の基礎
第 11 回	統計的仮説検定② 対応無し 等分散の t 検定
第 12 回	統計的仮説検定③ 対応無し 分散が等しくない場合の t 検定
第 13 回	統計的仮説検定③ 対応有り t 検定
第 14 回	統計的仮説検定④ 独立性の検定 クロス集計表と χ^2 検定
第 15 回	統計的仮説検定⑤ 無相関の検定
第 16 回	試験の実施

到達目標

心理学研究の実験や調査で用いられる基本的統計技法や数値データの意味が理解できる。
記述統計の意味を理解し、記述統計に関する簡単な計算ができる。
推測統計の必要性が理解できる。

履修上の注意

簡単な計算を行うので、ルート計算のできる電卓などの持ち込みを可とする。
スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などはマナーモードにし、鞆の中にしまっておくこと。
講義の最後に、受講していれば必ずわかる必須問題についての小テストを行う。

予習・復習

授業前日までに Teams に授業内容を掲載するので、教科書とともに授業資料をよく読んでおくこと。
授業内で行われた小テストの復習を行い、理解し覚えること。

評価方法

定期試験 50%、受講態度 20%、講義内での小テスト 30%にて総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：やさしく学べる心理統計法入門（新版・旧版いずれでも可）
- ・著者名：鈴木公啓
- ・出版社名：ナカニシヤ出版
- ・出版年（ISBN）：2018年（978-4-7795-1305-3）